

中部経済産業記者会、名古屋市政記者クラブ、
名古屋経済記者クラブ、瀬戸市記者会、
豊田市政記者クラブ、豊田市政記者東クラブ、長久手市同時



前回の合同発表会の様子

平成28年10月13日(木)
あいち産業科学技術総合センター
企画連携部
担当 中川、穂積
電話 0561-76-8306
愛知県産業労働部産業科学技術課
管理・調整グループ
担当 山田、加藤
内線 3389、3388
ダイヤルイン 052-954-6347

「明日を拓くモノづくり新技術2016」の参加者を募集します！

— あいち産業科学技術総合センター、名古屋市工業研究所、
ファインセラミックスセンター及び名古屋商工会議所による合同発表会 —

あいち産業科学技術総合センター、名古屋市工業研究所、一般財団法人ファインセラミックスセンター及び名古屋商工会議所は合同で、平成28年11月30日(水)に、「知の拠点あいち」※1あいち産業科学技術総合センターにおいて、合同発表会「明日を拓くモノづくり新技術2016」を開催します。

当日は、豊橋技術科学大学 教授 澤田和明^{さわだかずあき}氏の最先端のバイオセンサ※2に関する基調講演に加え、付加価値の高いモノづくりのイノベーション創出を目指す3試験研究機関の研究開発事例を発表します。また、発表会終了後には、「知の拠点あいち」の先端設備等を見学していただくことができます。

多くの皆様の御参加をお待ちしております。

1 日時

平成28年11月30日(水) 午後1時10分から午後5時20分まで

2 場所

「知の拠点あいち」あいち産業科学技術総合センター 1階 講習会室
(豊田市八草町秋合1267番1) 電話：0561-76-8306

3 主催

あいち産業科学技術総合センター、名古屋市工業研究所、
一般財団法人ファインセラミックスセンター、名古屋商工会議所

4 参加費

無料

5 定員

150名（申込先着順）

※見学会の定員は60名（申込先着順）

6 プログラム（詳細は別紙案内チラシを御参照ください）

13:10~13:15	開会挨拶
13:15~14:15	【基調講演】 「イノベーションを拓くマルチモーダルバイオセンサ技術」 国立大学法人 豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 教授 <small>さわだかずあき</small> 澤田和明氏
14:20~14:40	多孔質複合材を用いた柔軟な応力・ひずみセンサ材料 (名古屋市工業研究所)
14:40~15:00	圧縮や伸縮を検知できる布製のセンサを用いた計測システム (あいち産業科学技術総合センター)
15:00~15:10	休憩
15:10~15:30	炭素繊維リサイクル回収技術に対する新たな視点 (ファインセラミックスセンター)
15:30~15:50	生体に近い感触をもつ模擬臓器用材料と多層構造をもつ模擬臓器の開発 (名古屋市工業研究所)
15:50~16:10	パルスレーザーで刃先成形したダイヤモンドコーティング工具による超硬合金の高 能率加工 (あいち産業科学技術総合センター)
16:10~16:30	エッチピット法による次世代パワー半導体材料 GaN 単結晶の転位検出と分類技術 の開発 (ファインセラミックスセンター)
16:30~17:20	見学会 ・あいちシンクロトン光センター、高度計測分析機器、産業デザイントライアル コアなど

7 申込方法

平成28年11月24日（木）までに、以下のいずれかの方法でお申込みください。

① ホームページ

名古屋商工会議所ホームページのイベントカレンダーよりアクセスして登録。
(http://www.nagoya-cci.or.jp/event/eventdisp.php?event_id=1610040004)

② ファックス

本県のホームページ (<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/acist/h281013-shingijyutsu2016.html>) から案内チラシをダウンロードし、裏面の参加申込書に必要事項を記入してFAXで送付。

申込先：名古屋商工会議所 産業振興部

FAX：052-232-5752

8 問合せ先

あいち産業科学技術総合センター 企画連携部

電話：0561-76-8306

名古屋商工会議所 産業振興部

電話：052-223-8608

【用語説明】

※1 「知の拠点あいち」

「知の拠点あいち」は、付加価値の高いモノづくりを支援する研究開発拠点として、本県が万博跡地に整備。企業や大学等の研究者が共同研究開発を行う「あいち産業科学技術総合センター」と、原子や分子レベルで高度な計測分析を行う「あいちシンクロトロン光センター」からなる。

※2 バイオセンサ

たんぱく質などを用いた感知装置。生体内で化学反応を制御している酵素や、抗原抗体反応を担う抗体などは、雑多な混合物の中の特定の物質だけに作用している。バイオセンサはこの高い選択性を利用する。検知素子として、たんぱく質の酵素や抗体などを用いるものや、微生物を用いるものがある。